

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームはるなのはなユニット	評価実施年月日	2008年10月15日
評価実施構成員氏名	猪股久美、石垣枝智子、相坂幸子、高橋五月、尾崎智恵子、田澤綾子、竹山修一、山内公乃、渡辺ひとみ		
記録者氏名	渡辺ひとみ	記録年月日	2008年10月16日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「一人ひとりの思いを大切に、自分らしく生活できる自由とやすらぎのある家作りを目指します」という理念がある。</p>	○	<p>今以上に理念の実現に向けた話し合いを行っていく。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>会議、カンファレンスで本人の思いを大切にされた理念の実施に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も忘れることなく継続していく。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関に理念を掲示したり、行事などの場でケアを通して理解してもらえるよう取り組んでいるが、具体的な内容は伝えていない。</p>	○	<p>日々の交流を中心に伝えたり、カンファレンスで話しあった内容などを伝え、理解してもらうよう努めていく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>保育園との交流、散歩時の挨拶などを行っているが、気軽に立ち寄って、もらえることはできていない。</p>	○	<p>気軽に立ち寄ってもらうには、まずグループホームを知ってもらう。具体的には町内会に積極的に働きかける。回覧を利用し、レクの参加の声かけ、実施にむけ努力を行っていく。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>グループホームの行事の参加、保育園との交流ができています。</p>	○	<p>今後も行事の参加。町内会の行事(清掃ボランティアなど)にも職員が積極的にいき、交流を深めていく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>具体的な取り組みは行っていない。</p>	○	<p>地域との交流を深め、どのようなことができるか考えていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をユニット内で話し合い、外部評価の結果を報告し改善に取り組むよう努力している。	○	改善にむけ取り組むよう努力を継続していく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自己評価及び外部評価については、必ず報告し、助言などがある。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者の運営推進会議への参加はないが、介護保険制度などわからない事については、常に出向いて、アドバイスを受けている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内の研修などで地域福祉擁護事業や成年後見制度について学んでいるが、詳しいことが分からないため、全体的に知識は浅い。	○	学習会や研修で学んでいく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修などで虐待防止を学んでおり、防止に努めている。	○	定期的に学び、今以上に意識を高めていく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時は、入居に際しての質問などは聞くようにしている。また、解約に至る時も同様である。時には何度も相談を重ねたり、主治医に相談することもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者や家族から意見や不満、苦情を話してもらえる信頼関係作りができています。苦情があった場合は会議で報告し話し合っている。	○	今後も信頼関係作りを行なうとともに、苦情が減少するよう努めていく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時、または状況に応じて電話にて連絡している。定期的に広報紙を送付している。金銭の管理を依頼されている方には、毎月集計し、出納表を作成し、渡している。	○	今後も継続する。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族懇談会、第三者委員会があり、その内容を会議で伝え、反映されている。	○	今後も同様に継続する。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議などで意見を聞いたり、話すことができている。うまく伝えられない職員もいる。	○	グループホーム会議で意見をいう機会が少ない職員には積極的に意見交換できるよう会議を進めていく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員が少ない状況であり、不十分なこともあるが、出来るかぎり実施している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職に関しては、減ってはいない。ユニット及び法人内異動は、年に1～2回している。その際は、見知らぬ人に敏感な入居者については、すぐには関わらないなど配慮している。	○	離職がなくなるよう、検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>グループホーム内では、学習会の年間計画を立て実施している。法人内では、職員の経験年数別に、毎月様々な内容研修会を実施している。また、道のグループホーム協議会の研修などにも参加している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>外部の研修の際、また管内や市のグループホーム協議会の役員会などで、交流もっている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>日々悩みなどを聞くようにはしている。親睦会もあり、ストレスの解消の場となっている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>個人面談を行い、希望など聞き、取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>短い時間であるが、受け止めるよう努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>本人、家族がより良い関係になるよう努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他方面からの意見を聞き対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	認知症の重度の方の納得は難しい。生活をしながら、居心地のよい環境作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中で、様々なことを学ぶことができおり、支えあう信頼関係作りを行っている。	○	今後も同様の関係作りを深めていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には入居者の状況などを報告し、話し合うことができている。入居から日が浅い方、面会が少ない方とはできていない。	○	積極的に話し合い、家族との関係作りを行っていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係を理解し、より良い関係作りができるように努めている。	○	今後も継続する。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	高齢になると、なじみの場所や人の関係が少なくなっているのが現状であり、できるかぎり関係が途切れないよう支援している。	○	今後もできるかぎり支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士のより良い関係作りを行っている。孤立している様子がみられるときは職員がさりげなく寄り添い対応している。	○	入居者と共に楽しめるものを見つけたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院し、解約になっても、次の入居施設の相談などを行ったり、お見舞いにいったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、家族と話しを、希望や意向を聞き把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	カルテに事前訪問の内容や生活歴があり、把握している。また、本人、家族との会話の中から把握に努めている。	○	入居者をさらに理解していく努力を行っていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の行動や言動などを観察し、その状況に合わせて過ごせるよう努めている。	○	業務におわれることなく、様々な情報から快適な生活が送れるよう支援していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を聞き、その人らしい生活ができるよう、スタッフ間で話し合い、介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3ヶ月に1回見直しを行っている。期間に応じた見直しはできているが計画書の作成が遅れぎみになる時がある。見直し以前に対応できない変化がある場合は、その状況を話し合い、新たな計画の作成を行っている。	○	介護計画の見直し後、速やかな計画書の作成を行なうようにしていきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録を共有することができている。記録の内容は以前より介護計画にあったものになっている。	○	今後も、介護計画にそった記録入力を行なうよう努力していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内のデイサービス、特養の行事の参加は行っているが回数は少ない。	○	今後も様々なニーズに対応できるように柔軟な対応をしていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	保育園との交流、ボランティアドッグが月に1回来訪している。行事の際は、法人内にあるボランティアグループが来訪している。	○	積極的なボランティアの導入をしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの関わりはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	管理者、看護師とともに行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域にはいなく、必要時精神科医や主治医に相談している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が常勤しており、連携をとりながら、健康管理を行っている。	○	今後も看護師との連携を密にしていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には認知症の症状やケアのポイントを伝え、退院時には話し合いをしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	研修や学習会などを行っているが、全員の共有までにはいたっていない。	○	重度化した場合の対応ができるよう、情報交換を行い、方針を共有できるようにしていく。また家族の協力も重要であり、話し合い協力体制を整えるよう努力していく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	グループホームでできることと、できないことがあり、その状況にいったとき最善の対応を考え行っている。	○	重度化した場合には、対応できるチームづくりに取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	居室に使いなれた家具の設置などを行なうことで、住み替えのダメージを減らしている。家族の方の考えなどもあり全員が使いなれた物をおくことは難しい。	○	入居前は信頼関係も浅く、家族の方の考えもあり、うまく伝わらないため、信頼関係を築きながら今後も取り組んでいく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応を行っている。申し送りや日常での職員間の情報交換では、イニシャルを使いプライバシーに心がけている。	○	馴れ合いの関係にならないような言葉使いを行なうよう、常に取り組んでいく。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	入居者の方の力を見極め、混乱しないよう自己決定が行なえるよう支援している。		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	職員側のペースにならないよう、できるかぎり本人のペースで生活できるよう支援しているが、すべてにおいて希望にそった支援はできていない。	○	チームの連携を強め、希望どおりの対応に取り組んでいく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	本人や家族が望む理美容室に行くことができている。行事、外出時は化粧をしてお洒落を楽しんでもらうことができている。		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	それぞれの力を活かし、その方の状況に合わせて、配膳、下膳、盛り付け、皮むきなどを楽しみながら行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの健康を状態を考えながら、飲酒などを楽しめるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握、確認しながら、トイレ誘導などを行い、できるがきりトイレでの排泄ができるよう支援している。汚染があった場合は自尊心を傷つけないよう配慮している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間の設定はあるが、その人の状況に合わせてタイミングの良いときに入浴をしている。また、希望により日にちの変更も行っている。	○	入浴をあまり好まない入居者の方もおり、季節の湯、変わり湯などを行い、楽しんで入浴が行なえるように工夫していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠たいときには休息ができるよう、状況に応じて見守り、声かけを行っている。夜間、不眠がある場合は寄り添い、安心した睡眠がとれるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりであった生活の中で役割(調理、掃除など)がある。またカラオケなどで歌を楽しんでいる。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力を見極め、お金の所持を行っている。また、事務所で管理をしており買い物などで使えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	できるかぎり希望に応じて買い物に行ったりしている、また天気の良い日には施設外の散歩を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	グループホームの行事で日帰り温泉、ユニット企画で、外食、水族館、サクラボ狩りに行くことができている。誕生会企画で家族との外出はあるが、その他の行事は家族と一緒に行動することはできてない。	○	希望にそって、今後も継続していく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話を設置して、自ら家族に電話をしている方がいる。また家族からの手紙に返事を書くことができるよう支援しており、入居者の家族も喜んでいる。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族のほかにも、友人の方の面会もあり、居室や居間などで居心地よく過ごせるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	グループホームでは、身体拘束を行っていない。法人内及びグループホームには身体拘束廃止委員会があり、話し合った内容を職員に伝えている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯は鍵をかけているが、日中はかけることはない。夜間は安全のための施錠であることを全スタッフが認識している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者のプライバシーに配慮しながら、所在を常に把握しており、外出、散歩時は見守りを行っている。	○	生活パターンを過信せず事故のない、安全な生活が送れるように支援する。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	簡単な理由で、私物を預かることなく、本人に説明を行い、安全取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人内及びグループホームには事故防止委員会があり、事故の報告や集計、再発防止を考え、職員全員に周知している。	○	事故の予測を考えたケアを行うよう、今後職員の連携を強め、さまざまな事故をゼロにする努力を行う。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	学習会、研修で知識を得ている。ユニットにはマニュアルもある。	○	緊急時に冷静な対応ができるよう、今後も学習会や自己学習で知識を身につけていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を定期的に行っている。地域と協力しての訓練は出来ていないが、法人では緊急時には協力してもらう旨を話しており、了解を得ている。	○	地域と連携した訓練の実施につなげていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況に応じ、家族に連絡している。そのことを職員で話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定と様子観察を行い、変化を見逃さないようにしている。異変時には情報を職員間で共有し、看護師に報告している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	カルテに処方ファイルをファイルしてあり、目を通せるようになっているが、入居者のすべて薬の目的や副作用などは把握できていない。	○	できるだけ処方内容の把握に努めるが、すべてを理解するのは難しいと考え、重要な薬(副作用が強くできる可能性のあるものなど)についての把握から行っていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄パターンを把握しながら、水分補給を行っている。朝に牛乳の摂取、また、散歩や運動を行なうなどして、便秘予防に取り組んでいる。状況に応じた下剤の服用も行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、状況に応じた介助を行っている。	○	入居者の方の習慣もあり、朝、夕しか行なわない方もおり、習慣に配慮しながら、声かけの実施を支援する。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量や栄養バランスを考え、季節のものを取り入れたメニューを考えている。また食事量、水分量の少ない入居者の方には栄養剤や高カロリーのゼリーの摂取をうながすなどの工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の手すり、トイレの消毒を行い、外出後の手洗い、うがいを行っている。発症時に備えた準備もできている。ユニットにはマニュアルもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食中毒予防のため、毎日まな板、布巾などの消毒、週一回の冷蔵庫の掃除、定期的買い物を行い、新鮮な食材を使い、衛生管理を行っている。食材は安全管理のため、検食として2週間とりおきしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>1階正面は出入りが自由であり、エントランスホールにはソファがあり、くつろげるようになっている。ユニット玄関には花をかざりなごめるようにしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>生活の雰囲気をごわさないように、花や絵を飾り、居心地のよい空間作りを行っている。光や音は不快にならないよう調節している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間のソファで入居者同士が楽しめるような空間を作り、その他の場所では、廊下、台所などに椅子を置き、1人でくろいだり、職員と一緒に過ごしたりしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室に使い慣れた家具やなじみの物があり、居心地がよいよう工夫している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日定時に室温、湿度を確認し、窓をあけるなどの換気などを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内はバリアフリー、廊下には手すり、エレベーターを設置して、安全で自立した生活が送れるような環境が整っている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ADLの状態を把握し、できるところは自分で行ってもらえるようにしている。状況に応じてさりげなく声かけ、介助で混乱や失敗のない暮らしを行っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにはプランターで花や苗を植え、入居者の方と一緒に収穫を楽しむことができている。また、テラスでは散歩や焼肉などを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>① ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・物を作るという形で、入居者の楽しみを引き出し、物を作るという喜びを共に共感している。
- ・入居者の方が、グループホームで生活するうえで、本人がより良い生活を送れるよう、カンファレンスで徹底的に話し合うことに力を入れている。